平成２９年度　幼・保・小連携推進合同研修会

「幼・保・小連携の取組と体制づくり」

村田町立村田小学校　教頭　石田　隆幸

１　はじめに

（１）幼・保・小連携の意義

○学びの連続性を意識した幼児教育と学校教育の円滑な接続

（２）小学校に入学するときに，子どもが感じる段差

○上れない「段差」

・遊びの中での学び　→　教室での座学中心
・時間の区切りが緩やかな生活　→　時間で区切られた授業
・５領域の総合的な指導　→　国語，算数などの教科学習

○下りたくない「段差」

・年長者のしっかり者　→　最年少の１年生
・自分でやろうとする意欲　→　早い下校時刻
・自尊心　→　できないことが前提

段差をすべて取り除くのではなく，子どもの幼児期に身に付けた力で対応できるような滑らかな「段差」にすることが大切

子どもの成長には，背伸びとジャンプが必要

２　村田小学校区の取組

（１）平成２６・２７年度宮城県教育委員会指定
村田町立村田小学校区　幼・保・小連携推進事業の指定

（２）実際

①　教育課程レベルでの連携（別紙参照）

アプローチカリキュラム（小学校につながる協同的な学び・遊び）
スタートカリキュラム（幼・保での学びを生かした授業・生活）

【幼稚園教育要領における５領域】

・健康（心身の健康に関する領域）
・人間関係（人とのかかわりに関する領域）
・環境（身近な環境とのかかわりに関する領域）
・言葉（言葉の獲得に関する領域）
・表現（感性と表現に関する領域）

⇨

【小学校における学力の３要素】

・基礎的な知識・技能
・課題解決のために必要な思考力・判断力・表現力
・主体的に学習に取り組む態度

②　交流活動

・幼・保の交流（育ち合い保育）
・幼・保・小の交流

【５・５交流】＜年長児（５歳児）と５年生の交流＞・・・年３回実施
会場：村田小学校２回　村田幼稚園１回　※村田小学校での１回は一日入学

【なかよし会】＜１年生と年長児の交流＞・・・年２回実施
会場：村田小学校１回　村田幼稚園１回

【業間交流】＜年長児と全学年の小学生との交流＞・・・年３回実施
会場：村田小学校

【その他】：運動会総練習・歌声コンサート校内発表参観など
会場：村田小学校　※幼・保・小の保護者の参観

③　情報発信（別紙参照）

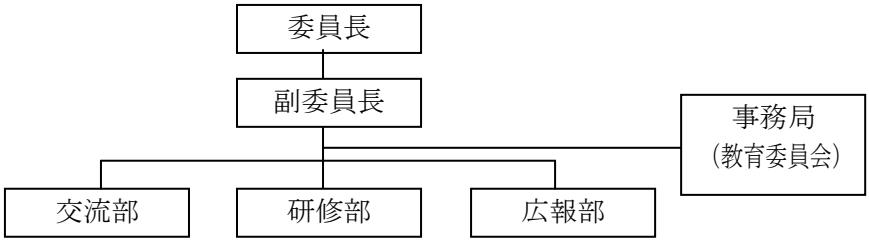
・お便り「すくすくのびのび　むらたっこ」の発行
　※年２回（幼・保・小の全保護者に配布）

④　職員研修

・講演会
・ワークショップ合同研修会
・小学校１，２年学習参観・・・会場：村田小学校　　参加者：幼・保の教職員
・保育所保育体験・・・会場：村田保育所　参加者：村田小学校の職員
・幼・保・小職員合同研修会

（３）体制　　＜村田町幼・保・小連携委員会＞

（平成２９年度より）



※各校園から１名ずつ在籍

（４）成果と課題

①　成果

・園児が小学校への期待を更に高めることができた。
・入学当初から，６年生は自然に１年生のお世話をする様子が見られた。
・小学生は事前･事後の学習を通して，園児との交流体験への思いや願いを膨らませたり，自分自身の成長を感じたりすることができた。
・教師の指導や教材などの共通点や相違点が明確になり，発達や学びの連続性を再認識できた。
・小学校において，保育所や幼稚園からの学びの連続性で子供の成長を捉え，「何ができない」から「何ができるか」という肯定的な価値観が生まれた。
・年長児後半から小学校入学期までの学びの連続性を意識し，その時期に育てたい力を明確にできた。
・互いの教育内容や指導法の違いを前提に，それぞれの施設の役割を再認識できた。
・交流会に参加した保護者から，安心して小学校に入学できるという声があった。

②　課題

・発達や学びの連続性を踏まえた指導内容や指導方法を一層工夫する必要がある。
・育ちの連続性を系統的に捉えるために，それぞれの発達に応じた具体的な行動目標を設定する必要がある。
　→「幼児期の終わりまでに育ってほしい１０の姿」【幼稚園教育要領】との関連

1	健康な心と体	6	思考力の芽生え
2	自立心	7	自然との関わり・生命尊重
3	協同性	8	数量・図形，文字等への関心・感性
4	道徳性・規律意識の芽生え	9	言葉による伝え合い
5	社会生活との関わり	10	豊かな感性と表現

３　終わりに

・「村田町教育基本方針」実現のための３つの施策→「幼稚園教育推進の施策」
・村田小・村田幼・村田保＋村田二小・沼辺幼・村田保の町としての取組へ拡充